日本共産党・和歌山市会議員
ひめだ高宏ニュース
NO.1406
'22.9.27

9月定例市議会報告

朝夕すいぶん涼しくなってきて、もう熱中症の心配はせずにすむようです。しかしコロナの方は相変わらずなのに、陽性者の全数把握が見直されたり、海外からの入国の検査が緩和されようとしています。コロナの方はまだ不透明感がぬぐえずスッキリできるのは、まだ先のようです。今号は、日本共産党市会議員団の一般質問について報告します。

スクールソーシャルワーカーの拡充を

スクールソーシャルワーカー（SSW）とは、児童・生徒の問題に対し、保護者や教員と協力しながら問題の解決を図る専門職です。

9月22日（木）日本共産党の中村あさと市議は、一般質問で本市が配置しているSSWは9人で、それぞれ2つの中学校区を担当しているものの1日6時間で年60回の勤務という不安定な雇用となっていることを指摘。中村議員は、1人の対象人数が多く、虐待や養育放棄など深刻な状況を見逃すことがないのか、取り組み状況を質し、人員体制の拡充や勤務条件の改善を求めました。

中村議員は、選挙の投票所で車イス用の記載台がなく高さの合わないため転倒しかけたという方の話を紹介し、投票所運営の実態と問題点について質問。また、期日前投票所について中央コミセンでの実施や車による移動投票所を求めましたが、当局はあっさり拒否。

本市の保健医療体制強化を

9月22日（木）日本共産党の坂口匁美子市議は、一般質問で、コロナの感染拡大で保健所や医療機関の体制が逼いつかず、6波では原則自宅療養、7波では保健所から原則連絡しないとなったことで、感染から6

今週のフツーの人々（その352）

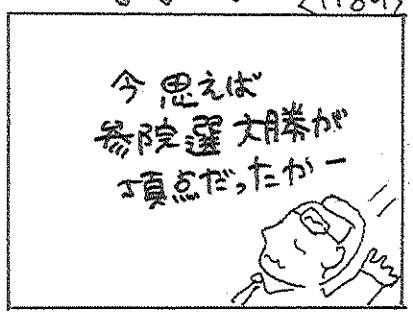
岸田内閣支持率急落

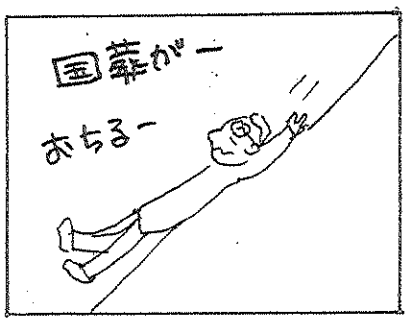
報道各社が9月16～18日に行った世論調査のすべてで、岸田内閣の支持率が内閣発足後最低となり、不支持率が支持率を上回りました。アベ元首相の「国葬」に反対が6割を超え、物価高対策への批判が約7割になるなど岸田政権の危機を示す結果です。

日本共産党の小池晃書記局長は記者会見で内閣支持率の急落が続いていることについて、「『聞く耳』を持つと言っていた岸田首相が国民の声には聞く耳を持たず、自民党の中の右寄りの声ばかりを聞いている」と指摘。「『決断』と『実行』を言いながら、決断すべきではない『国葬』は勝手に決断して実行しようとし、決断すべきである統一協会と自民党、アベ元首相との調査は決断も実行もしていない」と批判しました。

ひめだ高宏

フツーの人々〈1189〉





日、食事もほとんどできなかったという方の話を紹介。市民のいのちを守るためにも、本市の保健医療体制を抜本的に見直し、強化することを求めました。また、次期の和歌山市地域保健医療計画にコロナの教訓を生かすよう提言しました。

坂口議員は市駅前をはじめ市内各所に設置された仕切りのあるベンチはホームレスを寝させないための「排除ベンチ」だと指摘し、市に設置の考え方を質問。当局は「排除ベンチ」ではなく「高齢者の立ち上がりに配慮した手すりつきベンチ」だと答弁。坂口議員はこのバリアフリーの観点が無自覚なバリアフル空間を生み出していると批判。

城ホールのバリアフリー化

9月26日(月)日本共産党の南畑さち代市議は、和歌山城ホールのバリアフリー化について一般質問。

南畑議員は、和歌山城ホールが完成して約1年経つ中で視覚障害者の方からたいへん使いづらいとの声が寄せられ、8月29日に視覚障害者の方々と一緒にバリアフリーの状況を調査したことを紹介。歩道の点字ブロックと城ホール敷地の点字ブロックが途切れてつながっていないことや、総合案内所に平日は担当者が配置されておらず、用のある方は液晶画面や電話で担当者を呼び出すことになっているものの、視覚障害者への対応が考えられていないことを指摘。トイレへの通路が狭く車イスが通り辛いことや判別しにくい階段の段差、座席番号の点字表示がないなど、視覚障害者が建設前に要望していたことができていないのはなぜかと質し、早急に改善することを求めました。

生活保護行政の改善を

9月26日(月)日本共産党の井本ゆうい市議は、コロナ感染拡大で市の担当ケースワーカーの訪問活動が制限され、電話での対応となり、直接面談で丁寧に話ができなかったことからもめているとの相談が何件もあったことを紹介。ケースワーカーの担当数や訪問の計画、実績などを質問。また、和歌山市福祉・就労センターの支援についても質問しました。

井本議員は、JR和歌山線の布施屋(ほしや)駅と田井ノ瀬駅の駅舎が建て替えられたもののホームの屋根やトイレが撤去されたことからたいへん不便していることから布施屋駅で利用者アンケートを実施したことを紹介。駅舎建て替えにおいてホームの屋根やトイレの撤去について、JRからどのような説明を受け、利用者に意向調査をしたのかと質問。両駅とも1日の乗降客数は約6百人でJRは経費削減を目的に撤去したと答弁。

こんにちは日本共産党です

命削る医療費負担増

75歳以上の人のうち70万人に直撃する医療費窓口負担の引き上げ。窓口負担が1割から2割に引き上げられるのは、▽単身で年収200万円以上▽夫婦で年収320万円以上(課税所得にも基準あり)の世帯です。

政府は厚生労働省が2020年に示したモデル推計を根拠に「負担能力がある」と強弁。しかし「年収200万円」の単身世帯が食費や税・社会保険料、光熱水費、交通費などを支払った後、手元に残るのは月平均1万円。「年収320万円」の夫婦は1人当たり1万5千円にすぎません。年を重ねれば病気やケガをしやすくなるため、75歳以上の窓口負担が1割でも、2割負担の75歳未満(年4万4千円)より2倍近い年8万3千円で、負担増はいって不公平になります。

松坂みち子をはげます会

10月10日(月)祝日です
お昼の2時から
プラザホープ4階
(1部)うたごえオーケストラズ 講話
(2部)応援メッセージ
清水ただし前参議院議員 来賓